

練馬区議会議員(無所属)

# かとうき桜子

## 区政レポート



2017年11月号

(議会報告通号 Vol. 113)

〒178-0063 練馬区東大泉 3-1-18-102

電話 03-3978-4154 FAX03-3978-4158

HP <http://www.sakurako-nerima.com/>

メール sakurako\_happy\_society@yahoo.co.jp



メールマガジン発行中!

### 福島県天栄村に稲刈りに行ってきました



10月7日と8日、福島県天栄村に稲刈りに行ってきました。

福島県天栄村は福島の中通りという地域にあり海からは遠く、原発からも70キロほど距離がありますが、2011年の原発事故直後は空間放射線量が高くなってしまっただけで、農業を続けられるか危ぶまれた時期がありました。その時、「ただ諦めてしまつたのではなく、チェルノブイリ事故の時の取り組みなどにも学びながら、放射性物質低減のために努力しよう」と村役場職員が農家さんを支えて農業を続けました。そして、肥料の工夫などで2011年から放射性物質が検出されない米づくりを実現しました。

現在では、天栄村の空間放射線量はおおよそ0.1マイクロシベルト(以下、「μSv」と記述)台。ちなみに練馬区の2011年は0.06~0.1μSv台、現在は0.03~0.05μSvくらいです。練馬区は0.24μSv以上の場合には除染するという基準を決めていますので、それらの数値と見比べてみると天栄村もずいぶん落ち着いてきたといえます。

福島県内で生産された米は現在も全袋検査がされていて、ウェブサイトにも公表されています。状況が落ち着いてきた天栄村も、できるだけ農薬を使わない、肥料を工夫するといった美味しく安全な米作りの取り組みが続いています。

震災、原発事故という悲しい出来事がありました。これを機に生産者と消費者が日常的な交流を続けることによって、より良い社会ができる信じ、天栄村とは田植え、草取り、稲刈りを通じた交流をこれからも続けていきたいと考えています。ぜひみなさんもご参加ください。

二〇一七年十一月

かとうき 桜子

### 介護の現場で働く人とお話ししてみませんか ~介護の仕事って、どんなことしてるの?~

「介護のヘルパーさんって、どんなことをしてくれるの?」  
そんなご質問を区民の方からいただきました。  
そこで今回は、ケアマネジャー、ヘルパー、デイサービスの職員など、介護の様々な分野で活躍している専門職の方々をスピーカーにお招きして、ざっくばらんに皆さんと意見交換できればと考えています。難しい制度の話ではなく、日常の言葉で語り合い、「介護が必要になっても、安心して暮らせる地域」を一緒に考えましょう!

- 【日時】2018年1月20日(土) 午後2時~4時
- 【場所】OPEN SKY(練馬区東大泉1-37-8 ドラゴンスクエアIIビル7階)  
※大泉街道の、三菱東京UFJ銀行のある交差点のところの、カラオケの鉄人が入っているビルです。
- 【スピーカー】ケアマネ、通所介護、訪問介護や入所施設などで働く方々
- 【参加費】無料  
\*定員30名。お席に限りがありますので、参加希望の方は、電話、FAX、メール、Facebookのいずれかの方法で、お名前・ご連絡先をお伝えください。



普段、介護の仕事をしている人たちはどんなことをしているのか、介護を必要としている人たちはどんな生活をしているのか...自分や家族が当事者にならなければなかなか触れる機会がないと思いますが、介護職の方たちから日常の様子をお聞きし、皆さんと交流できる機会になればと考えています。

こうした会を今後、定期的で開催し、将来的には「介護が必要になっても安心して暮らせる地域にする」ということを、区民の皆さんと介護専門職の皆さんとで一緒に考えていけるような会に発展できたらと願っています。

#### 駅でのレポート配布について

かとうき桜子は、月に1回のペースで新しい区政レポートを作成しています。視察など遠出をする場合などに間があくこともありますが基本的に1ヶ月で1めぐりするように、おおむね以下のようなスケジュールで朝の通勤時間帯(7時~8時30分頃)に駅前配布しています。

- ・毎週月曜日:大泉学園駅北口  
(喫煙所の近く、駅正面のドトール前、グランエミオのビルの近く、みずほ銀行の近くの4か所を順番に回っています。月曜日が祝日だったり、月曜日に視察等があり都合がつかないときには曜日を変更する場合があります。)
- ・月2回、火曜日:大泉学園駅南口(1階ロータリーと2階デッキ)
- ・水曜または木曜のうち月3回:保谷駅北口と南口(北口正面、線路沿いの道、南口西友前)
- ・月3回、金曜日:石神井公園駅(中央改札側の駅正面と高架下と、西口改札付近)

#### かとうき桜子プロフィール

- 1980年生まれ。現在、区議会議員3期目。
- 慶応義塾大学文学部に在学中、ホームヘルパー2級の資格を取得
- 大学卒業後、夜間の上智社会福祉専門学校に入学、社会福祉士取得
- NPOで介護の仕事をする中で、地域福祉・地域社会にさらに深く幅広くかかわる必要性を感じ、2007年区議会議員選挙に初挑戦、当選
- 公立保育園の民営化問題に疑問を感じ、区議の活動のかたわら立教大学大学院・21世紀社会デザイン研究科にて研究。2010年修了
- 2012年、検診で子宮頸がんが見つかり治療。女性の健康へのとりくみの必要性についても政策提言
- 大泉学園町4丁目に猫3匹と夫と住んでいる



# 楽しみながら ユニバーサルデザインのまちづくりを

## 練馬区が進める、 経路のユニバーサルデザイン化

練馬区は現在、公共施設のみならず、まちの移動経路のユニバーサルデザイン化を進めようとしています。今回の定例会で担当者からは次のような説明がありました。

「これまで公共施設のバリアフリー化については、建築物、公共交通施設、道路、公園など、個別に整備を進めてきました。

今後の課題として、駅と主要な公共施設を結び経路など、相互のつながりを意識したユニバーサルデザインを進めていくことが必要であるという認識をしています。

そのため、経路の整備の方針や手順を示す『(仮称)ユニバーサルデザイン経路ガイドライン』を作ろうと考えて、今検討を進めています。」

公共施設や公共交通機関のバリアフリー化はだいぶ進んできているけれど、その間の移動経路にバリアがあったら移動ができないため、まち全体のユニバーサルデザイン化を進めなければなりません。

連続した経路は、区が所有している道路・施設ばかりでもないのです、多機関が連携して

進めなければなりません、そのためのガイドライン作りを進めているということで、とても大切な取り組みです。

## 民間施設までの経路の ユニバーサルデザイン化も必要

練馬区が現在進めているのは、区立施設までの経路の検証ですが、区の施設だけではなく、民間であっても公共的な役割を持つもの、特に福祉的な施設(例えば民間の福祉施設や、練馬区が区民に運営を任せている「相談情報ひろば」など)は、移動に配慮を要する人も多く利用するので、そこまでの移動のしやすさも課題となります。

今回は、区に対し、以下の課題を解決するための提案をしました。

### 課題① 制度的な規制がある

例えば視覚障害のある人は点字ブロックを目印に移動しますが、まちには点字ブロックがない場所も多くあります。

基本的に、点字ブロックは歩道につけることになっているのですが、歩道のない住宅街の道路には点字ブロックはほとんどありません。

ん。(高田馬場の日本点字図書館付近はかなりの多くの視覚障害者が利用するために例外のようです。)

そうなること、住宅街の中にある民間福祉施設などの付近には点字ブロックがないため、初めて視覚障害者がその施設を訪ねるとなると、バリアがある状態となります。

### 課題② 優先順位の問題

現状では、区立施設と公共交通機関をつなぐ経路のバリアの解消も不十分な中で、区としてはまずは区立施設までの道のりのユニバーサルデザインを進めることが優先と考えているとのことです。物理的な問題解決には予算がかかるという事情もあると考えられます。

### 解決策① 制度を乗り越える工夫

秋津駅から新秋津駅の間は、西武池袋線からJRに乗り換えるために5分ほど歩きます。その道路には歩道がついていないため、点字ブロックを敷設することができていませんでした。そこで、当事者が中心に改善を求める活動をし、現在は、

白線の上に立体の線を2本引くという取り組みをしています。

これは制度的に確立された点字ブロックではないため、今後、安全性の面の検証などを進めていく必要もあります。が、既存の制度でうまく機能しない場合は別の工夫を考えることができるのだという好事例といえます。

### 解決策② ソフト面の工夫

視覚障害のある人は、「最寄駅から自宅」のように、毎日行き慣れた場所であれば、道路の傾き具合や、まちにある音や香りで判断をしながら歩いているので、必ずしも点字ブロックがなくても移動できていく人も多いそうです。一方で、初めて行く場所やあまり行かない場所は、目印が分からないので、ガイドがつくなどの対応が必要になります。視覚に障害のない人が地図を頼りに行くのと同じですね。

だから、不特定の視覚障害者がアクセスしやすいようにするために、点字ブロックなどの誘導があったほうが良いということなのです。

そこで、点字ブロックの敷設が難しい場合には、①その場所までの経路にある目印となる音や香りのマップ作りをする、②その場所に香りのする植物を植えたり、騒音規制との兼ね合いも探りつつ静かな音楽を流すなど、何か目印になるものを設置する、という方法も考えられます。こういう目印を発見する取り組みは、視覚障害のある人だけでなく、皆が楽しんで関わることもできます。

こうしたアイデアを区が発信して、区民が楽しめるユニバーサルデザイン化を進めることを提案しました。

## 【練馬区の検討状況 (区議会第3回定例会における課長答弁より)】

### 【2016年度】

課題の抽出・基礎調査

⇒主要な駅周辺の区立施設や道路、沿道の状況等についての実態調査、他自治体の事例や既存データの分析等、連続性を妨げる要因について整理

⇒・駅周辺や主要な公共施設は、一定のバリアフリー水準を満たしていることは確認できた。

・一方、整備者や整備時期が異なる箇所、つなぐに問題がある。例えば、建物と道路の境界部分で点字ブロックが途切れていたり、段差が生じやすい傾向にある。

### 【2017年度】

- ・ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進めるに当たっての方針や、配慮すべきことなど、具体的なガイドラインの内容をまとめる作業
- ・高齢者、障害者、子育て世代など、さまざまな区民の皆様のご協力のもと、アンケート、ワークショップ、ヒアリング等を実施。
- ・区民の皆様の歩行者としての視点に立って、分野をつなげるガイドラインとしていきたい。今年度中を目途にガイドラインをまとめたい。
- ・策定後のガイドラインの活用については、建築物、交通機関、道路、公園などの整備や整備後の管理について、ガイドラインを尊重した整備などを促してまいりたい。

### 【用語について：国の障害者基本計画 用語説明より】

・バリアフリー

障害のある人が社会生活をしていく上で障壁(バリア)となるものを除去するという意味で、もともと住宅建築用語で登場し、段差等の物理的障壁の除去をいうことが多いが、より広く障害者の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的なすべての障壁の除去という意味でも用いられる。

・ユニバーサルデザイン

バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア(障壁)に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

秋津駅から新秋津駅  
までの道に敷設され  
た白線↓

